

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400066		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム 月の里		
所在地	千葉県市若葉区中野町727-1		
自己評価作成日	平成30年3月12日	評価結果市町村受理日	平成30年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>内科、精神科、皮膚科、歯科の定期往診を導入し、医療体制の充実が図られています。体調不良時の早期受診を心がけ、入院必要時に備え医師、病院との連携を図っています。安心してのんびり暮らせるようにこころのケアも行っています。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念である利用者の尊厳を大切にしたいケアに努めており、日々の支援、言葉遣いにも配慮している。事務室には高齢者虐待防止や高齢者虐待ゼロ宣言、身体拘束排除宣言などのポスターを掲示し、意識付けを図っている。また、ホームでは「3ない運動」に継続して取り組んでおり、「ダメと言わない」「怒らない」「説得しない」の標語を掲げ利用者に関わっている。利用者は一様に穏やかな表情で過ごしており、職員一人ひとりが利用者を尊重したケアに努めていることがうかがえる。訪問当日は職員の笑顔も多く見られ、ホームの雰囲気よさもうかがえた。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設長を中心に職員は常に運営上の方針や目標などを話し合っている。理念を掲示し全体会議などの時に唱和している。	理念をホーム内に掲示するとともに、毎日のラジ体操の前に唱和したり、昼のミーティング時に触れている。また、月1回の全体会議などの場で、理念である「利用者の尊厳を大切にしたい支援」の実践について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事のときや消防訓練の時などに近隣の方に声をかけ、参加していただいている。また夏祭りのお誘いを受け参加させていただいている。	地域のお祭りに参加したり、近くの寺社に散歩で出かけている。ホームのクリスマス会や消防訓練は、近隣にも声かけし、参加してもらっている。また、毎年ホームで踊りを披露してくれる人たちもおり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業者は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けていかしている	運営推進会議を通じてサービス内容や行政の報告などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族、地域包括センターに参加していただき意見交換、質問に回答などを行っている。制度への理解が出来たと喜んでいただいている。	運営推進会議は3か月に1回、地域包括支援センターや民生委員、地域住民、家族などの参加で実施している。会議は行事報告やホームの取り組み、研修内容のフィードバックなどを行い、情報交換している。なお、議事録は家族に送付してもよいと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多いため事務手続きなど市のグループホーム連絡会に出向きアドバイスや情報提供を受けている。市の福祉事務所に相談を持ちかけ担当者とも密に連絡している。	地域包括支援センターは運営推進会議に出席しており、意見交換をしている。また、区の担当課には出向く事も多く、協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の支援の中で常に意識している。また、声かけや対応においても拘束につながらないよう全員で注意している。研修に欠かさず参加し、その後施設内研修を実施している。	管理者、職員は利用者の尊厳を大切にケアにあたっている。身体拘束廃止、虐待防止の研修に職員を派遣し、その後は全体会議で話し合っている。言葉遣いも職員間でお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束と同様に研修に参加し、施設内研修で皆に伝え虐待防止は合言葉となっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉権利擁護センターと連携し必要な方に活用していただいている。職員に後見人制度について説明。虐待防止も権利擁護活動の一つだと伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に充分時間をかけて利用者様や家族の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。家族や利用者との人間関係を大切にしている。話しやすい雰囲気を作り随時要望を聞いている。	家族の来訪は多くないが、来訪時には意見や要望を聞くようにしている。また、利用者の意見については、職員が日常的な関わりのなかで把握するようにしており、できる限り反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を行い意見の交換を行っている。運営に関する職員の意見を管理者を交えて話し合う機会を開いている。	職員の意見などは毎日のミーティングや、月に1回の全体会議などの場で聞く機会がある。管理者は普段の業務のなかでも、何か問題があればいつでも話を聞いている。勤務シフトは希望休など職員の意見を反映させ作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常に職員の勤務状態を把握し、給与水準を見直していただけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に参加を促している。参加しやすいよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員で地域交流会や勉強会に参加している。資料を基に社内研修を行い全員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに慣れていただく段階で不安を取り除くため極力声かけしている。言葉や要望に傾聴し安心した生活が築けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の話をよく聴きどのようなことを求めているのか理解するよう努めている。安心して入居していただけるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの話をよく聴き、専門家としての判断をし、何が利用者のためになるかを良く考えて援助するようしています。希望に沿えるよう健康面や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬い、利用者の方が毎日楽しく過ごせる支援を提供。喜怒哀楽を共にして支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を理解し本人と家族の絆を築けるようしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも訪ねてきてくれたり、友人などから連絡があれば伝え、面会の機会につながるよう支援しています。また地域の祭りなどに参加しています。	家族と一緒に馴染みの場所などに外出する人もいますが、友人や知人の来訪は少なくなっているのが現状である。そのなかで、ドライブで地域に出かけたり、近くの神社の祭りに参加するなど、馴染みの場所をつくるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの方々が孤立せず助け合って交流し合えるよう支援しています。リビングでカラオケなど皆で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への移動や入院されても面会に行き家族の相談助言に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感情や意思の表出が困難な人には言動を詳細に観察し導き出すよう寄り添っています。生活歴など参考に一人一人の要望に傾聴しています。	何でも言えるような環境をつくるようにしており、利用者の率直な気持ちを聞くことができている。耳が遠いなどコミュニケーションが難しい場合は、筆談などでやりとりし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞くだけでなく家族やこれまでのサービス提供者からも情報収集するよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状況を観察し、小さな変化にも気づけるよう心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員が話し合い、家族の面会時に説明し適切な対応が出来るよう計画を立てています。	利用者の状況は、ミーティングなどで職員間で話し合い、ケアマネジャーがまとめて介護計画を作成している。介護計画は職員全員に周知するとともに、毎月モニタリングを行って状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記録すると共に毎日情報交換のための話し合いを行なっています。必要があれば計画の見直しにつなげていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉や介護、医療制度について学んでいます。介護の方法や相談に応じる旨を家族に伝えるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ警察や消防と連携をとっている。民生委員やボランティアなどと協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を導入している。異状時には速やかな対応が出来るよう医師や病院との連携が速やかにいくよう情報提供や相談をこまめに実施しています。	月2回、受診できるように支援している。また、慢性疾患のある利用者は、専門医を受診するために職員が定期的に病院に同行したり、歯磨きを十分にできない利用者について週1回訪問歯科を利用するなど、適切に健康管理ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に心身の状況や対応について、医師や看護師から情報提供、指導を受けている。インターネットからの情報も参考にして学んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会を頻回に実施し安心して療養できるよう支援している。医療関係者と情報共有化できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報を基になるべく早い時期からご家族、行政と相談し合い、方向性を話し合っている。ターミナル研修に参加し社内研修に活かしている。	昨年度の目標達成計画の現状における課題に「終末期の支援体制を整える必要性」を挙げ、具体的な取り組み内容の一つとして、入居時に終末期ケアに関する意思確認を行うとしている。これに向けた外部研修を管理者が受講し、準備を始めている。	準備を整え「重度化と終末期に向けた指針や方針」を明文化し、関係者間で共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は施設長に連絡すると共に緊急時の対応マニュアルに従い対応。定期的に勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしたり、地域の協力が得られるように普段からの交流を心がけています。日頃から掲示されている手順書を全員で確認している。	避難訓練を定期的実施しており、今年度は、土砂による災害を想定した訓練も自主的に行った。日頃から地域との連携に努め、居室には防災頭巾準備している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時、着替え時には他の入居者の目に触れないようドアを閉めて対応している。自尊心を傷つけないよう本人の気持ちに配慮した声かけ介護を行なっている。	居室に入る時にはノックをする、トイレのドアは必ず閉める、名前を呼ぶ時はさん付けで呼ぶなどの基本を大切に、利用者の尊厳の尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様に話しかけたり、日々の言動などから理解すべく努めている。本人の持てる能力を活かして自己決定を図っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スケジュールは決まっていますが無理強いせず、一人一人のペースを大切に、希望に沿って支援しています。外出や買い物の同行希望に対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたら着替えていただき常に清潔な衣類を着ていただいている。行事や外出時には本人の意見を聞くようにしている。ひげは毎日そり整髪は定期的に職員が実施。女性の希望者は化粧やマニキュアを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が準備している。片づけができる人には食器洗いやテーブル拭き、配膳、下膳をしていただいている。行事の時には散らし寿司や利用者の好みを聞いて献立に反映しています。	食事専門の職員を配置し、彩りのよい変化のある食事の提供に努めている。誕生会のケーキや行事食、時には回転ずしなど、食事が楽しめるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日三食、主食、副菜、水分量の摂取量を記録し一人一人の状況把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時には歯科受診実施。定期的に訪問歯科診療、歯科衛生士の定期訪問を受け良好な口腔状態の維持に努めています。指導を受けて個々の状態に配慮した口腔ケアを実施しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレにいける人もパットの汚れ、装着の確認を実施。尿意を訴えない方も時間を見計らいトイレ誘導し排便、排尿を促している。排泄チェック表は一日及び月単位で記入し個々の状況把握をしています。	利用者一人ひとりの状況を排泄チェック表で把握したうえで、個々の状況に応じて声かけ誘導などをして自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれた食事の提供を心がけています。水分量を把握し不足のないように留意している。リビングに誘導して体力に見合って離床を実施。下剤に頼らないよう努めています。毎朝ラジオ体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているも本人の拒否があった場合、無理強いしないようにしている。時間をずらしたり日を変えて対応している。	入浴の順番は職員が調整しているが、一番風呂の希望などにも応えられるように努めている。入浴は職員と一対一で関われる機会であり、利用者にとって楽しい時間となるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンや健康状態を把握して疲れている方には臥床していただいている。眠剤に頼らないよう安眠環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ノート、投薬カレンダーを作り、のみ忘れやのみ間違いしないよう工夫しています。服薬説明書を職員で共用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感が感じられる行事や誕生会を提供。演歌を聴いたりカラオケをしたり地域の祭りに参加したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望や体調を考慮して買い物や散歩など出かける機会を設けています。花見や紅葉見学、回転寿司での外食など気分転換が図られるよう取り組んでいます。	近隣の散歩にはよく出かけており、なかには一人で散歩に行く利用者もいる。買い物に行きたいという希望にはドライブを兼ねて出かけている。また、行事計画を立て、お花見や紅葉狩りなど季節ごとに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の認識や希望を伝える能力に乏しい人は職員が援助しています。家族や生活保護の方は行政と確認を取り合って対応しています。買い物に行ける人には同行し援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ季節の花を飾っています。展示物や壁飾りなどに季節感を採り入れています。空調はこまめに調整しています。	季節感を採り入れた共用空間は清掃が行き届き、気になる音や臭いもない。利用者が気持ちよく過ごせるように心がけていることがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに、ソファを設置。いつでも自由に座っていただいている。他の入居者や職員とテレビを見たり会話をしたりして過ごしていただいている。天気の良い日は外気浴、日光浴を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのものを極力置いていただいている。配置などは本人の状況に応じ、事故のないよう配置している。つまずきや転倒の原因にならないよう整理、整頓を心がけている。	仏壇を持ってきている利用者は毎日、職員の協力を得て水を替えている。利用者はそれぞれ大切な品を持ってきており、ホームは自分らしい部屋になるよう支援している。また、各居室には温度計を置いて適切な室温管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないよう個々の居室に表札をつけトイレにも表示しています。混乱した様子の方には声かけし誘導、援助を行っています。		